

私の当院におけるNo.1

24歳で医師となり、京大心臓血管外科に入職以来37年、7病院で勤務してきました。当時は2年間の研修制度などなく、1年目から心臓手術に参加、人工心肺装置も自分たちが回っていました。2年目には心房中隔欠損症の閉鎖術ができるようになり、関連病院に赴任しました。ですので、心臓手術経験年数としてはNo.1クラスかと思います。

手術となる疾患は、虚血性心疾患(冠動脈バイパス術)、心臓弁膜症(人工弁置換や弁形成)、大血管(瘤、解離)、末梢血管

(閉塞性動脈硬化症、静脈瘤、内シャント)に大別され、ほぼすべての術式に対応できます。得意なのは大動脈手術でしょうか。合併症が皆無とはいきませんが、急性解離を含め多くの患者さんを救命しています。手術時間も比較的短時間です。最近、元気な高齢者が増加し、90歳の胸部大動脈瘤(8cm)に対して弓部人工血管置換術(5時間39分)を行い、当日抜管し、2週間で軽快退院されました。患者家族の希望があり行いましたが、この手術の自己最高齢を更新しました。腹部大動脈瘤手術については95歳が最高齢です。胸腹部大動脈瘤の難しい症例もありますが、自分でやるのが一番と自負しています。

私の専門領域

最新治療としては、当領域でも胸腔鏡を用いて右開胸から弁手術を行うなど、ロボット手術も現実化しています。しかし、人工心肺装置の確立(脱血、送血)や心筋保護の問題もあり、条件の良い患者さんしか適応できません。小切開ですがハイリスクの手術と考えられ、従来の方で安全に手術を行う方が良いと現段階では思っています。

大動脈弁狭窄症に対するTAVI(経カテーテル大動脈弁置換)や僧帽弁閉鎖不全症に対するMitraClip(経カテーテルクリップ修復)なども可能となっており、良い適応例もありますが、残念ながら当院では施設認定を取れないので、今後の課題です。大動脈瘤治療についてはステントグラフト内挿術の発展が著しく、動脈瘤の形態によって適応できる症例は限定されますが、カテーテル治療で切らずに治すことが可能となりました。大動脈解離にも応用可能です。

医師じゃない私の素顔

車は好きです。大学生の頃にはオートボックスでアルバイトをしながら愛車カローラレビンをいじり倒していました。医師になって、BMW320i、憧れのM3、そして最近までALPINAに乗ってfun to drive! ターボより自然吸気の方がレスポンスが良く快感ですが、今では環境に悪いので絶滅危惧種です。

ゴルフは30歳頃に始めて月1~2回は継続中です。80台で回れたこともありましたが、最近は100を切るのがやっと、ドライバーは200ヤードも飛ばなくなりました。怪我なくゴルフができるだけで幸せ、健康と交友維持目的です。数年前夏休みに、ハワイでゴルフ場内のコンドミニウムに泊まって3日間回り放題のプランに行きました。乗用カートのフェアウェイ乗入可なので速ければ3時間で18ホール回れ、2つのコースを計5.5ラウンド回りました。温泉旅行も大好きです。秘湯を探して行きます。

ビートルズが好きでギターを中学生の時に始め、勉強の合間によく練習していました。『Here comes the sun』は得意で今でも弾けます。しばらく触っていませんでしたが、以前勤務していた病院の手術室でGLAYの曲が流れていて、『BELOVED』が好きになりギター復活。最近ではあいみょん『猫』の弾き語りを酒の友に楽しんでいます。音痴なので語りはできませんが、今ではネットで楽譜が簡単に入手できるので楽になりました。

麻雀は高校生から覚え、今でも先輩に学会や同門会で合うと必ず誘われます。いつも回転の速い3人麻雀です。ネットゲームで暇つぶしをしている時もあります。

休日の過ごし方で多いのは、昼からチョコビ飲み食い。ビールからワイン、ハイボール、寿司なら冷酒、中華なら紹興酒。特に赤ワインが好きで、ボルドー5大シャトーをすべて飲んだことは自慢です。すべて濃厚ですがシャトー・ラトゥールが一番美味しかったです。無駄に時間を使って残念な感じはします。所詮、人生は暇つぶしです。



読者の皆様へひとこと

当院の先生方はみんな優秀で患者さんの幸せを第一に考えて診療しています。治療内容も滋賀県一と誇れると思います。待ち時間が長いとか、職員の態度が悪いとか不満に思われる点もあるかもしれませんが、良い信頼関係を築いていけたら幸いです。

心臓血管外科医も絶滅危惧種です。京大に入局する人は年に2-3人だけで、転科する人や開業する人もいて医局員は減る一方です。自分は外科医になったことに後悔なく、手術ができる体で幸せ、生涯現役です。ほかに能がありませんし、ここが自分を最大限生かせる場所です。



カローラレビン



BMW 320i(富士スピードウェイ)



M3



ALPINA B6

滋賀県立総合病院の高度医療 ～ECMO(エクモ・体外循環式膜型人工肺)編～

新型コロナウイルス感染症は世界中で猛威をふるっておりますが、時には肺炎を併発することがあります。重症の肺不全となった際には最後の砦として呼吸機能を補う『ECMO』が導入されます。当院では2022年1月に国産の装置(泉工医科工業社 UNIMO)を2台購入しました。これは最新鋭で遠心ポンプや人工肺を制御する部分、酸素や体温を管理する部分、システムを安全・確実に監視する部分が一体型となっているのが特長です。ECMO治療は肺の代わりに血液に十分な酸素を加えて二酸化炭素を除去することができますが、血液の体外循環を要し、太い静脈の確保が不可欠です。当院スタッフは送脱血が1本で可能な経皮挿入型ダブルルーメンカテーテル(GETINGE社Avalon Elite)のトレーニングを受けており、迅速に活用することができます。

本装置は高度心不全に対してはPCPS(経皮的心肺補助装置)としても利用できます。数ある人工臓器の中でも特に「いのち」に直結する人工心臓や人工肺。これらの超高度な医療機器を操作・管理して治療を成功に結ぶには我々心臓・循環器専門医をはじめ、臨床工学技士、看護師、薬剤師など専門性の高い医療スタッフの協力が必要です。様々な合併症の回避のためには各科医師との連携・協働が重要となります。当院は県立病院のうち唯一の総合病院としての使命をもち、これからも県民の「いのち」を守っていきます。



滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)

〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4番30号
電話077-582-5031(代表)

滋賀県立総合病院ホームページ
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/>



※本誌へのご意見や感想等をぜひお寄せください。

FACEしがネット受付サービス

<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/surveys/8124789265493085857>



〈院内紹介動画を配信中!〉

ふだんは入ることができない手術室の様子などを
動画で紹介しています。ぜひご覧ください。



当院ホームページURL

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/center/322221.html>

